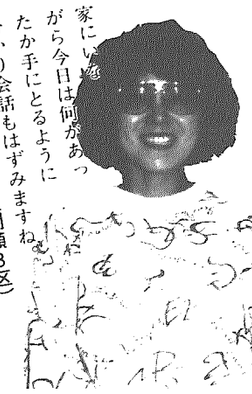
お母さんたちの反応は!?



家にいながら今日は何があったか手にとるように分かり会話もはずみますね。
阿部三枝子さん（間瀬3区）

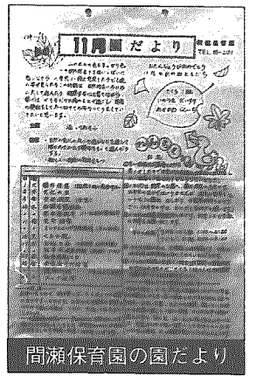
園だよりは本当に保育園と家庭とのパイプ役になっていると思います。内容も見やすくていいですね。
加藤純子さん（和納3区）

ことばから行事予定表が改良されて、毎月、冷蔵庫の前にはって見ています。後藤登志子さん（橋本）

毎月発行は正直いってしんどいですね。でもお母さんたちに喜ばれるとファイトがでます。

間瀬保育園＊佐藤昭子園長

さとうあきこ・54歳。スタッフ8人。園児30人。



間瀬保育園の園たより

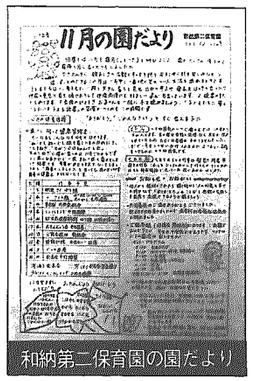
毎月発行するのも正直いって大変です。いま作っていて気をつかう点は、できるだけ季節感を前面に出して、お母さんたちにとって読みやすい編集をすることです。また毎月、主題と目標を決めてそれにそった保育活動を展開するため、お母さんたちにもそのことを十分にお伝えしたいのですが、なにぶんにも一枚しか発行していないので、あれも入れよう、これも入れようと毎月迷ってしまいます。言葉であるとその時の雰囲気や感じで理解してもらうことも可能ですが、それを簡潔に文章化するってホント大変ですね。昔からこの保育通信というか園だよりはありましたが、印刷技術の伸展でずいぶん作りやすく?なったことはうれしいことです。

季節感のある「ことば」なんかを紙面のトップに出し、保育園らしさを強調しています。

和納第二保育園＊陶山奈々園長

すやまなな・33歳。スタッフ6人。園児65人。

毎月、この園だよりを編集しはじめるころになると、ホント苦しい思いがします。それは、多くの保護者のみなさんに見ていただくものですから、簡潔で容易な文章表現に意を注がなければならないからです。編集上は、季節感のある「ことば」を中心に保育園らしさを思いきり出すよう注意をしています。手前味噌になるかもしれませんが、新聞や雑誌などに載っている四季折々の「ことば(たとえば七五三や節句など)」なんかをできるだけストックするようにしています。また他町村の園だよりも定期的に交換しあいながら、いい点は盗むようにして、できるだけお母さんたちに園の動きや日本の伝統的慣習を伝えていきたいと心がけています。しかし、わかりやすく心をとらえるように文章化するって、実に大変なことです。



和納第二保育園の園たより

願いは親子のコミュニケーション

下の保育園長の声でもお分かりのように発行するまでには、それぞれが苦心惨澹している様子が分かります。

たった一枚の園だより?——といっても作る側にとっては大変なようですね。

ところで、これからの希望として、各保育園とも、「さらに読みやすく、的確な情報提供に努める」ことだそうです。こう書くと、いかにも簡単?そうで、当然のことのようですが、そういう方向性をつくるには、やはりお母さんたち（家庭）との相互の信頼とコミュニケーションといった交流が重要なポイントを占めるように思います。園だよりの発行自体は、もちろん一方通行ですが、そこに載っている内容といったものには、お父さんやお母さんたちの知りたいと思う〝欲求〟ができるだけ満たされているようなものでなくてはいけませんね。

それは、毎日の子供たちの動き（行事予定など）です。きょうは何をしているのかな、いついつには何があるんだな、といった未来への〝読み〟です。これは、出す側（保育園）の努力研鑽もさることながら、受ける側（家庭）の自助努力も必要です。

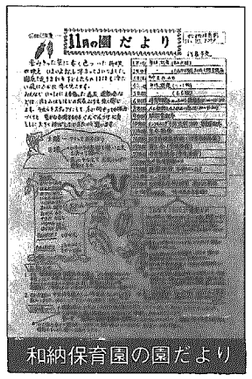
子供たちのため、毎日一回は必ず見て、子供たちの活動、給食のメニュー、そして園の動きを把握しておくことだと思います。

前ページの「お母さんたちの反応は?」でご紹介した阿部さんの話にもあるように園だよりを一つのきっかけに、子供たちと楽しい会話ができる——ということは本当にすばらしいことだと思います。そんな面でも、〝園だより〟は生きているんですね。

いろいろなみなさんから読んでいただくため、簡潔な文章づくりに心をくだいています。

和納保育園＊星井康子園長

ほしいみちこ・52歳。スタッフ10人。園児132人。



和納保育園の園だより

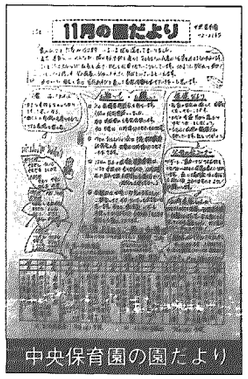
毎月十五日過ぎから起案をはじめるのですが、確かに神経を使います。いろいろなみなさん（保護者）が読むものですから、誤字やまぎらわしい表現、むずかしい表記などは極力さけるように注意をしています。また保育園ということで、お母さんたちの子育て上のアドバイス——たとえば、こんなところにご留意を、というテーマで毎月、忘れかけているようなことをシリーズで掲載しています。ほんとうは、もっと詳しくわかりやすいようにすれば良いのですが限られたスペースの中でのことですからお許しください。しかし、わたしは起案だけで、あとは園だより担当保母がうまく割り付けをしてくれるので喜んでいます。ところで、この四月から和納保育園の園だよりは「給食献立表」に合わせ縦に書くように変更しました。家で並べてはっておくには便利だと、うれしい反応もありましたね。そんな、ちょっとした工夫で良くなるのですから、心に銘じてまた編集していきたいと思っています。

園だよりで不足している部分はクラス通信などでカバーして保育園の動きを伝えています。

中央保育園＊後藤トミ子園長

ごとうとみこ・47歳。スタッフ13人。園児166人。

ここは園児数がいちばん多いので（百六十六人）、たんじょう日の紹介欄が多くなる傾向があり、園としては、もっと伝えたい、知らせたいと思う情報に制約がありますね。でも、若い保母がうまくレイアウトしてくれるので、とても助かっています。正直なところ、いま発行している園だよりだけでは十分な情報提供ができないため、それらをカバーする意味から、園独自で、各クラス（二歳児から五歳児）の保育通信を別に発行しています。ここには、子供たちの実際の活動状況や年齢に合わせたしつけの仕方、健康上の注意点などクラス担当保母が実践活動で得た生の感想を載せていて、保護者のみなさんから評価をいただいています。これからも、園だよりの充実と併わせ、クラス通信などを使って園の実態をお伝えできれば、と願っています。



中央保育園の園だより